

対話コーパスを用いた言い淀みの語の統語論的考察

土屋菜穂子

青山学院大学大学院文学研究科 日本文学日本語専攻

1 はじめに

言い淀みに関する研究についていくつか例を挙げると、次のようなものがある。

- 社会言語学的立場から、言葉の使用はさまざまな条件に影響を受けるという考えに基づいて研究するもの。談話の性質（対話か独話か、あるいは親しい人との談話か、そうでないか等）、及び発話者の年齢、性別ごとに、出現する言い淀みは異なるという観察結果を提出。（塩沢1979、Nagura1997等）
- 日本語教育上での必要性から研究するもの。言い淀みを、発話権を維持するためのコミュニケーション上のストラテジーのひとつとして捉える。（ザトラウスキー1987、島1988、堀口1998、李1997等）
- 「談話標識」あるいは「心的操作標識」として研究するもの。言い淀みを、話し手の心的状態をモニターする機能をもつ心的操作標識のひとつとして捉える。（定延・田窪1995、田窪1995、田窪・金水1997等）

このように、アプローチの方法はいくつかあり、また、内省による研究、実例のデータを使う研究など、その観察方法もさまざまであるが、これらの多くは、主に談話中における言い淀みの役割、機能に焦点を当てたものとなっている。

本研究では、先行研究において言い淀みの語であるとされているいくつかの語を取り上げ、対話コーパスの実例を観察することで、それらの語の性質の一端を統語論的に考察したい。結論では、発話中における言い淀みの語の出現位置の範囲を、感動詞¹の出現位置と関連させて記述する。

¹感動詞を含む語としては、対話コーパスに頻出する「あ」「ああ」「ふうん」「へえ」「ほう」等のいわゆる感動用法をもつ感動詞をその典型的なものとして挙げておく。

2 対話コーパスを使った観察

先に紹介した先行研究の中で言い淀みとして挙げられている語を参考にして、本研究では、「ええ」「あの一」「その一」「まあ」「やっぱり」「なんか」「えー」「うーん」といった語を取り上げ、以下これらを言い淀みの語と呼ぶことにする。そしてこれらの語について、次に挙げる対話コーパスを資料として観察を行う。資料とした対話コーパスの詳細は表1に示す。

- 1 『ATR 対話データベース』V1.2. エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所.1993
- 2 『研究用連続音声データベース』Vol.7. 日本音響学会連続音声データベース調査委員会 日本情報処理開発協会知的音声処理調査研究委員会.1993
- 3 『RWCP 音声対話データベース』. 技術研究組合新情報処理開発機構 RWC データベースワークショップ（音声グループ）.1996
- 4 『女性のことば・職場編』自然談話データ. 現代日本語研究会. ひつじ書房.1997
- 5 『模擬対話音声コーパス』Vol.1~4. 文部省科学研究費補助金重点領域研究「音声・言語・概念の統合的処理による対話の理解と生成に関する研究」代表者堂下修司.1997
- 6 『インタビュー形式による日本語会話データベース』. 文部省科学研究費補助金重点領域研究「日本語会話データベースの構築と談話分析」. 研究代表者上村隆一.1998

対話コーパスの利用法については、基本的にはテキストデータを使用する。ただし「えー」「うーん」は、テキストデータからは応答詞の「ええ」「うん」と区別がつきにくいので、これらについては対話コーパス5・6の音声データも用いて実際の音声を確認しながら観察を行う²。

3 接続詞「で」との共起

具体的には、言い淀みの語が、同一発話者の発話中において、接続詞「で」と隣り合って出現し

²音声データについては、筆者自身が聞き取りを行った。その際、言い淀みの音調であると判断する基準としては、杉藤1997、田窪・金水1997を参照し、「えー」はイントネーションが平坦であるもの、「うーん」は平坦もしくは緩やかに下降しているもの、とした。

表 1: 対話コーパス詳細

対話コーパス (略名) ^a	発話者数 ^b	対話数 ^b	対話の形式 ^c	機械可読
1 (A)	不明	72	模擬対話	○
2 (研)	29 (男 21、女 8)	30	模擬対話	○
3 (R)	52 (男 26、女 26)	48	模擬対話	○
4 (職)	154 (男 62、女 74、不明 18)	49	自由対話	○
5 (音)	42 (男 31、女 11)	33	模擬対話・講演	○
6 (イ)	56 (男 20、女 36)	50	インタビュー	○
発話者数、対話数の合計 ^d	333 (男 160+女 155+不明 18)	282	—	—

^a 〈略名〉とは、実例を示すときに用いる、出典コーパスの略名。

^b 発話者数、及び対話数とは、本研究で資料として使用した対話における発話者数、対話数という意味。テキストから方言が見てとれるもの、日本語を母語としない話者のものなどは資料の対象外とし、数には含めていない。

^c ここでは対話の形式として便宜的に三種類に分類している。「自由対話」とはいわゆる自然談話、「インタビュー」とは話者のうちの特定の人物がインタビューアとして固定しているもの、「模擬対話」とは、話題が前もって設定された上で行われる対話である。また「講演」は対話ではないが、便宜的にこの欄に記述した。

^d 発話者数の合計は『ATR対話データベース』の人数を除外した合計となっている。

ている³場合に注目する。そして両者が共起している場合について、言い淀みの語が

- 「で」よりも先に出現するか (「言い淀み+〈で〉」)
- 「で」よりも後に出現するか (「〈で〉+言い淀み」)

という点を観察する。

上の観察に入る前に、接続詞「で」について、その出現位置を確認しておく、文と文の間もしくは述語のテ形の後に出現するのが典型的な例である⁴。

- (1)2: あっ、はい。パン屋は800円です、時給。
 1: 800円? (2:はい) あーそうですか。で、パンなんかもらえるんですか? (イ)
 (2)E. そうゆうお店って自分で買いにいって、で、その場で金払って、もらって、(ああ 他者(男)) 席について。(職)

一方、言い淀みの語は、「で」と同様に文と文の間、述語のテ形の後に出現可能である他、例えば次のような場所に出現が可能である⁵。

- (3) パッケージですと [あの] ジュエアーの割引が [あのー] ありますので、[あのー] つくりあげるよりはお安くなっておりますけれど 〈A〉
 (4) 今度125号と、交差するところがあるんですが、{はい} それを[えーと]右折して 〈研〉
 (5) 日本人の学生の場合は、もう少しやっぱり引いてるっていうか 〈イ〉
 (6) あっあのー抹茶茶碗を (1:ええ、ええ、ええ) 作りました、あのー簡単な、うーんお箸置きとか。〈イ〉

³以下、このことを「共起している」と表現する。

⁴同一発話者による一発話内の場合に限定する。以下の言い淀みの語の場合も同様である。

⁵畠 1983は「で」も言い淀みのひとつとして挙げているが、上のように言い淀みの語と比べて、「で」はその出現位置がより固定的であることから、今回取り上げる言い淀みの語と同じには扱わない。

では以下から、言い淀みの語と接続詞「で」が共起している場合の例を観察していく。

3.1 「〈で〉+言い淀み」の形をとるもの

まず、「ええと」「あのー」「そのー」「まあ」「やっぱり」「なんか」から見ると、これらは「で」と共起した場合、「〈で〉+言い淀み」という形を取ることがわかる。「言い淀み+〈で〉」となることは非常に少ない。このように、これらは、接続詞「で」の後に出現する言い淀みの語であり、「で」に先立って出現することはきわめて困難である。

表 2: 言い淀みの語と接続詞「で」との共起

言い淀み+〈で〉	用例数	〈で〉+言い淀み	用例数
ええと 〈で〉	0	〈で〉 ええと	24
あのー 〈で〉	8	〈で〉 あのー	194
そのー 〈で〉	0	〈で〉 そのー	6
まあ 〈で〉	1	〈で〉 まあ	70
やっぱり 〈で〉	0	〈で〉 やっぱり	13
なんか 〈で〉	1	〈で〉 なんか	10

- (7)B: [えー] 8334の、{はい} 934です。

A: はい。

B: で、[えーと]サイズコードは、[えー] 62で、{はい} お願いします。(音)

- (8)2: それから今度のはあの、ロンドンの方に、(1:はい) また、あの、転勤ということで、でー、あのーわたくしまた、あー、あのー、(1:あー) ええ、好奇心旺盛なものですから、(1:はい) はいはい付いて行きまして (以下略) 〈イ〉

- (9)D: でそれがー、あのー済んでから、その討論に入ると。

A: はい。

D: でその一、それでま、一人抜けてちょとさみしいとゆうようなこともあるので、[名字] 先生にはそのまま残っていただいて (以下略) 〈職〉

(10)1: あ、どうもありがとうございます。はい。で、まあこれはじゃ断るのは割と英語でも、あの一すらずと、簡単に。

2: そうですね。〈イ〉

(11)A: [あの一] {はい} 日本での例えば、{はい} 高速とばして、百 [まあ] {し} だひやいけないんだけど、{ええ} 百越すと、ふわふわと {はい}。浮くような感じが、するんですね、{はい、はい}。気のせいかな。で、やっぱり、スピンするんじゃないか、で不安になりますでしょ。〈R〉

(12)A: そいで、したらその子たちが行けなくなっちゃって (うん 他者(女))、でなんか、ハワイ行くんす、みたいな話をしたら一 (以下略) 〈職〉

3.2 「言い淀み+〈で〉」の形をとるもの

次に「えー」「うーん」についてであるが、今回は、対話コーパス5・6の音声ファイルを利用したのみであり、すべての音声ファイルを扱うことができなかった。よって現時点では、音声データとテキストデータの組み合わせで検討することにする。

「えー」「うーん」とともに、「言い淀み+〈で〉」という形をとることができる。以下の例は、音声データを聞いて確認したものである。また、(13)と(14)の発話者は異なる。

(13)A: [えー] そこで、こういう文法について、[えー]、次のような処理方針で試作をしたというのが現状です。[えー]、で、話し言葉という事で、色々ありますが、まず、言い廻り [えー]、「それは、お使いになります。」とかいうような発話があった時に (以下略) 〈音〉

(14)A: [えー]、で、はたして [その]、[おー]、[んー]、うん、そうですね、[えー]、だからやっぱりそこをこれから頑張っていくかといけな。[えー]、で、ようやく、[うー]、感じとしてはですね、[まあ]、記述の枠組みができたところじゃないか (以下略) 〈音〉

(15)1: 例えば覚えてらっしゃる中で、誰か、私達も名前を知っているような人で。

2: 人で。うーん。で、その本を読んで思ったんですけど、著名な人の話の方がつまらないんですね。 (以下略) 〈イ〉

(16)1: んー、7時半からですか。

2: はい。

1: はい一、んー、で曜日は、の方はどうでしょう？

2: 曜日は、えーと学生なので平日は毎日学校に行くことを考えますと、土日のどちらかお休みいただければ (1: ああ) と思うんですけども。〈イ〉

また、これらの語は「〈で〉+言い淀み」という形もとることができるように思われる⁶。

(17)2: あ、(1:うん) はい、それは、はい、とても、嬉しいと思います。／で、えー、通勤手当一ですけれども、(2:はい) これは、あの一、／一一律一。〈イ〉

⁶ただし、「〈で〉うーん」の例については、テキストデータでは確認したが、今回使用した音声データの中では未確認である。

このように「えー」「うーん」は、接続詞「で」に先立って出現することも、また、「で」の後に出現することも、どちらも可能な言い淀みの語である。

4 言い淀みの語の出現位置の範囲の記述

さて、言い淀みの語を接続詞「で」と共起した場合に注目して観察した結果、少なくとも今回取り上げた言い淀みの語には、

1. 「言い淀み+〈で〉」、「〈で〉+言い淀み」のどちらの形もとるもの ⇒ えー・うーん
2. 「〈で〉+言い淀み」の形だけとるもの ⇒ ええと・あの一・その一・まあ・やっぱり・なんか

があることがわかった。つまりこれは、発話中における出現可能な位置の範囲が、1の類の言い淀みの語と2の類のそれとは異なるということである。以下では、これらの言い淀みの語の出現位置の範囲の違いを、主に感動詞の出現位置と関連させて記述していく。

まず最初に、感動詞と、先ほどの観察で取り上げた接続詞「で」が共起した場合について、両者の出現位置の関係がどのようになるのかを確認したい。両者が共起する場合は、「感動詞+〈で〉」という形を取り、感動詞が先立って出現する。「で」が感動詞よりも先に出現することはない⁷。

(18)1: うん。あの一、アパートですか？

2: 今ですか？ (1:はい) はいそうです。

1: ああ、で一、どんなアパート？〈イ〉

(19)1: ええ。どこでやったんでしたっけ。

2: ええと一、ディッフェンドルファー記念館の、(1:あーあそこ) オーディトリウムで。

1: ああ一、そうですか一。へえ一。で音楽は誰が付けてくれるんですか？〈イ〉

また、参考として「で」と他の接続詞が共起した場合⁸のそれについても記しておく、両者が共起している場合は、必ず「〈で〉+他の接続詞」という共起順で出現している。

(20)2: そのメッセージ性がすごくあったんですね。(1:うーん) で、それで、ちょっと読んでみようかな、と思って。〈イ〉

(21)1: あーそうですか、私もなかなかキャッチアップしてないんで判らないんですけど。そうですか。で、じゃあ日本であの一、三ヵ月お帰りになったときにどちらに。〈イ〉

⁷「で」に限らず、接続詞が感動詞を導くことが不可能であることは、佐治1970において述べられている。

⁸「で」と共起していた接続詞は、それで・だから・それから・そうすると・じゃあ・だけど・でも・ただし等である。

以上、感動詞と接続詞「で」、及び参考として「で」と他の接続詞について、それぞれが共起した場合の出現位置の関係をみた。接続詞「で」を中心に据えて、感動詞、他の接続詞の出現位置を整理し、それに言い淀みの語の出現範囲を加えると、次のようになる。

感動詞	+	（で）	
		（で）	+
			（他の接続詞）
えー・うーん	+	（で）	+
		（で）	+
			えー・うーん
			ええと・あの一

1の類の言い淀みの語「えー」「うーん」は、感動詞の出現位置に出現することができると同時に、感動詞が出現することが不可能な「で」の後にも出現することができる。2の類の言い淀みの語「ええと」「あの一」「まあ」等は、感動詞が出現することが不可能な「で」の後に出現する。

	「で」よりも先に出現	「で」よりも後に出現
感動詞	○	×
「で」以外の接続詞	×	○
えー・うーん	○	○
ええと・あの一	×	○

表 3: 接続詞「で」と共起した場合の出現位置の範囲一覧

5 今後の展望

本研究では、言い淀みの語について、接続詞「で」と共起した場合に注目することで、その出現位置の範囲を、きわめて部分的にはあるが記述した。

言い淀みの語と「で」以外の他の接続詞との共起関係については、現時点では調査中であるが、さらに言い淀みの語によって、共起順に差がありそうである⁹。

以上のように、出現位置の範囲によって言い淀みの語を分類することが可能であることから、今後は、談話中の言い淀みの語の機能についても、このような分類ごとに詳しく考察を進めていくことが可能であると思われる。

⁹例えば「それで」と「ええと」、また、「それで」と「あの一」の共起に注目すると、「ええと＋それで」という例は比較的多いが、「あの一＋それで」という例は少ない。

参考文献

- [1] 上村隆一・田吹昌俊(1996):「コーパスを利用した談話分析」、『1996年度「人文科学とコンピュータ」シンポジウム予稿集』文部省科学研究費補助金重点領域「人文科学とコンピュータ」1996年度研究成果報告書第3号
- [2] 金久保紀子(1993):「大学の講義における接続の表現」、『日本語と日本文学』18号.筑波大学国語国文学会
- [3] 金水敏(1983):「感動詞」『研究資料日本古典文学 第12巻 文法』.明治書院
- [4] 国立国語研究所(1960):『話しことばの文型(1)―対話資料による研究―』.秀英出版
- [5] 佐治圭三(1970):「接続詞の分類」、『月刊文法』2巻10号.明治書院
- [6] 定延利之・田窪行則(1995):「談話における心的モニター機構―心的操作標識「ええと」と「あの一」―」、『言語研究』108号.日本言語学会
- [7] 塩沢孝子(1979):「日本語のHesitationに関する一考察」、『ことばの諸相』.文化評論出版
- [8] 杉藤美代子(1997):「自然な対話における非文法的な発話のプロソディと聞き手の理解」『文法と音声』くろしお出版
- [9] 杉山栄一(1943):『国語法品詞論』.三省堂
- [10] 田窪行則(1992):「談話管理の標識について」、『文化言語学 その提言と建設』.三省堂
- [11] 田窪行則(1995):「音声言語の言語学的モデルをめざして― 音声対話管理標識を中心に―」、『情報処理』36巻11号 情報処理学会
- [12] 田窪行則・金水敏(1997):「応答詞・感動詞の談話的機能」、『文法と音声』.くろしお出版
- [13] Nagura,Toshie(1997):"Hesitations (Discourse Markers) in Japanese".『世界の日本語教育』7号.国際交流基金 日本語国際センター
- [14] 西野容子(1993):「会話分析について―ディスコースマーカーを中心として―」、『日本語学』12巻5号.明治書院
- [15] 芳賀綴(1982):『新訂日本文法教室』.教育出版株式会社
- [16] 畠弘巳(1983):「場面とことば」、『国語学』133号.国語学会
- [17] 畠弘巳(1987):「話しことばの特徴―冗長性をめぐって―」、『国文学解釈と鑑賞』52巻7号.至文堂
- [18] 畠弘巳(1988):「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」、『日本語学』7巻3号.明治書院
- [19] 浜田麻里(1995):「いわゆる添加の接続語について」、『複文の研究(下)』.くろしお出版
- [20] 福島佐知(1996):「話しことばにおける「添加」の接続表現について―「そして」「それで」「それから」―」、『日本研究教育年報』.東京外国語大学
- [21] ポリー・ザトラウスキー(1987):「談話の分析と教授法(III)―勧誘表現を中心に―」、『日本語学』6巻1号 明治書院
- [22] 堀口純子(1998):「日本語教科書の会話に見られる言いよどみ」、『言語処理学会第4回年次大会発表論文集』.言語処理学会
- [23] 益岡隆志・田窪行則(1992):『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版
- [24] 丸山直子(1996):「話しことばにおける文」、『日本語学』15巻9号.明治書院
- [25] 森山卓郎(1989):「応答と談話管理システム」、『阪大日本語研究』1号.大阪大学文学部日本学科(言語系)
- [26] 李麗燕(1997):「日本語母語話者の会話における「情報伝達行動の持続」」、『世界の日本語教育』7号.国際交流基金 日本語国際センター